

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200152		
法人名	社会福祉法人浩福会		
事業所名	グループホーム玉うさぎ		
所在地	香川県丸亀市川西町北998-1		
自己評価作成日	平成28年12月27日	評価結果市町受理日	平成29年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋の建物にOMソーラーを利用し、一年中快適に過ごす事ができています。同敷地内にて「あかちゃんうさぎ」「華キッズ」今年から保育所も開始となり、毎日子供達のにぎやかな声が聞こえてきております。合同で行事を行ったり一緒に楽しい時間を過ごしております。近隣の住民の協力を得て、野菜を作り、利用者と子供達で収穫祭を開催しております。職員の育成にも力を入れており、積極的に研修に参加し、個々のスキルアップを目指しております。同系列の施設での介護教室や合同行事の「桃祭り」「餅つき」にも参加しております。他にソウエルクラブに参加し、福利厚生の実現を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

静かな田園が広がる新興住宅地の中、ゆったりした敷地に和風の木造平屋造りの落ち着いたたたずまいの事業所である。隣の建物には小規模保育所や子育て支援の事業所があり、法人の地域福祉への意気込みが感じられる。また、日常的な地域の老若男女の関わりや交流が、自然とできる仕掛けになっている。利用者は職員に見守られながら、自分のできることは何時までも継続して行えるよう一人ひとり気配りされている。法人事業所は、職員が働きやすく開かれた職場づくりに腐心されており、職員は意欲的に仕事をされ、資格取得やスキルアップに取り組まれている。事業にはペットがいて、その存在も癒しの効果となっている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町2360-111		
訪問調査日	平成29年1月30日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に職員で理念を復唱している	毎日、「笑顔と安らぎ、ふれあい」の理念が唱和されている。毎日穏やかに笑顔に包まれた安らぎのある暮らし、地域にとけこみ親しまれる明るい家庭的なふれあい、を大切に実践に励まれている	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近所の方と気軽に挨拶したり会話している。事業所で飼っている犬の散歩を近所の方が連れて行って下さる	日課とともに自治会から行事のお誘いがあり、お月見やお祭り、獅子舞などの活発な交流が図られている。隣の保育所や子供たちと合同の行事を組んだり、地域のボランティアの受け入れも行われている	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練・太鼓台・獅子舞等イベントに参加する事で、地域の方々に理解が広がっていると思われる		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、施設の現状の報告を行い、アドバイスや意見を頂いている	運営推進会議には各グループホームの家族が持ち回りで参加され、地域の方や市の職員も参加されている。議題は参加者の関心の高いものが多く、意見やアドバイスをいただいている	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、グループホーム連絡会に参加し、常時、相談・助言が得られる関係を築いている	運営推進会議の他に、市主催のグループホーム連絡会があり、相談や助言をもらっている。日頃から連絡が密に取られている	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の意識統一を図り、身体拘束について勉強している。鍵を使用しない見守りを行っている	各種の研修会には積極的に参加し、職員の勉強会を通じてケアについて検討がなされている。玄関は夜間施錠するが、日中は開錠し職員の寄り添いや見守りを重視したケアが行われている	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介助時、入浴時等に身体の観察を心がけている。常に心理的、精神的に虐待がないように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その後、自施設の勉強会にて周知している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、家族の意見を聞き確認している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時に現状の報告や家族の意見を聞き、職員間で話し合い実践するようにしている	意見箱設置の他に、面会や行事の参加時に話し合いの機会が設けられている。個人の要望は、出来る限り対応がなされている。また管理者会で相談したり、検討がなされている	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会等で各自の意見を聞き上司に報告するようにしている	勉強会で出た意見を管理者が取りまとめ上司に伝えられている。理事長や施設長がよく事業所を訪問するので、直接要望や意見を話す機会がある。職員のキャリアアップについては組織全体で協力する体制が出来ている	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価のアンケートや、キャリアアップ手帳を用いて個々の状況把握に努めている。アンケートの内容や解答を回覧している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように取り組み、勉強会等で取り上げ研修を行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて他事業所と意見交換を行い、自施設に持ち帰り活かすようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との信頼関係が築けるように話しを聞き個別に関わる事を大切にしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等に現状を報告すると共に家族の要望に耳を傾け、しっかりと話しを聞き要望に答えられるようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分に話し合いを行い、希望や思いを組み取り、ケアに活かすようにしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りを行ったり、後片付けや洗濯物たたみを行い役割を持った生活を送れるようにしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に一緒に話しができるようにし、家族との時間を持てるようにしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に頼み、行ける方は馴染みの病院や散髪に連れて行ってもらったり、家族以外の面会者ともゆっくり過ごしていただけるように配慮している	普段からご家族等の訪問は多い。近所に住んでいた利用者や職員がいるので何かと、お誘いも多い様子である。実習やボランティア活動にも協力して受け入れがなされている	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常時側について話し相手になったり、利用者同士の話しにも入っていくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談等を受け、協力するようにしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思いを組み取り、本人の希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な方は思いを組み取れるよう努力している	本人や家族の聞き取りに合わせて、本人の会話や暮らしぶりから意向がくみ取られている。心身の少しの変化も逃さないように、整理された独自のアセスメントシートや担当制で、詳細な本人状態の把握に努められている	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの中で、昔はどうしていた等、本人の今までの暮らし方を聞いている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、職員間で情報を共有し、個々の状況の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	勉強会等で職員全員から意見を聞き状況に合った計画を作成している	本人や家族の意向や勉強会で、担当者や職員たちから出たアイデアや意見を、計画作成者が聞き取りモニタリング及びアセスメントして、3か月ごとに計画が作成されている。担当者会議には、ご家族や本人も交えて話し合いがなされている	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のアセスメントシートに介護計画に沿った行動に赤線でチェックしモニタリングに活かしている。プランは各人のファイルに添付している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出・外食支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる慰問、行事や地域への行事の参加を行っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医を決め、往診や受診を行っている	入所時にかかりつけ医を尋ね、本人や家族の希望どおりに決められている。現在は協力病院から週2回往診があり、歯科も複数往診がなされている。家族の協力で受診した場合には、受診後看護職員に結果が伝えられている	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態を常に観察し、変化があれば看護師に連絡を入れ、支持を仰ぐようにしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態を見に行き、医師や看護師に状況を聞いたり、ソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換をし良い関係作りをしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族への説明をすると共に職員全体で方針を共有できるように勉強会を行っている	入居時に家族には説明されているが、積極的な医療行為が必要になる場合等は、施設の特性等から勘案して受け入れが難しいとの判断がある。看取りケアは、マニュアル化され勉強会等も行われており、準備はなされているが、難しい場合には本人や家族が不安にならないよう責任をもった対応がなされている	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを備えすぐに連絡が取れるようにしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行う。地域の方々に協力してもらえるように民生委員を通じお願いしている	防火訓練は年2回実施、防災に備えて食料の備蓄も利用者3日分の用意されている。以前は合同で避難訓練がなされたこともある。地域の方々に、災害に備えた避難訓練の協力をお願いされている	更に事業所の防災力アップと地域への貢献を図るため、自主避難の難しくなっている利用者を加えた防災訓練などを契機に、地域の人たちとの協力体制がより深まることを望みます

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に声掛けや対応に注意し行動する様になっている	アセスメントシートには本人と職員以外は例えば、Aなど匿名で記載されている。現場においても一人ひとりに個別性の高い声かけやケアが行われている	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引き出せるように対応し日々の生活を楽しく送って頂けるよう支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に提案はするが本人の希望を重視し本人のしたいように過ごして頂く		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選べる場合は自分で選んで頂いたり、外出や行事の時に化粧をしてもらっている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下処理の手伝いをしてもらったり一緒に食事をしてから一緒に片付けを行っている	一人ひとりの能力に着目した作業を依頼して職員と一緒に参加されている。食事も、職員も同じ場所で同じものを食べている。食事の形態は、その人に合わせて自力摂取可能な形態で対応がなされている	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みに合わせ水分補給して頂いたり、利用者が飲みやすいよう工夫しながら毎日水分量をチェックしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。夕食後は入れ歯洗浄剤を使用している。必要な人には歯科往診を利用して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるようにしている	排泄パターンを把握して、日中はほぼトイレを使用する方が多い。自分で出来るよう履物はそのままで出入りでき、手すりの配置や温度調整も適度に保たれている。夜間は離床センサーを利用し、表示があれば部屋の外で職員が待機して安全の確保がなされている	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い管理している。食物繊維の多い食材を使用したり、適度な運動を毎日行って頂いている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、曜日は決めているが本人の希望により変えるようにしている	入浴は基本週3回実施されている。本人の希望があれば変更できる。入浴は午前と午後があり、身体状況に合わせて座位での特浴や、木製のお風呂での個浴ができる。また、風呂に入れない日は手浴・足浴や清拭なども実施されている	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや体操等に参加して体を動かしてもらい夜ぐっすり眠れるよう工夫している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに薬の用途や副作用を書いた紙を入れておき、職員がすぐ確認できるようにしている。症状に変化がある時はすぐ看護師に連絡している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割を持ち過ごせるように支援している。特技を活かした作業を行ってもらったり、外出等の気分転換を図っている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよるが施設の周りを散歩したり施設で作っている野菜の手入れを行っている。昼食を外で召し上がって頂いたこともある。個々の外出は家族と協力して行っている	天気の良い日は、事業所周辺を散歩されている。庭では野菜作りや園庭で遊ぶ子供たちと交流がなされている。季節により公園で花見や紅葉鑑賞など、ゆったりとお出かけがされている。また、ご家族と協力して、誕生日には外食したり、すしの出前を取り楽しまれている。戸外で出られる人が少なくなっているが、一人ひとりが楽しめる工夫がなされている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金は家族の預りとしているが、本人や家族の強い希望がある場合は少額にして頂き、本人に管理してもらっている。何か買いたい時は、家族に相談し購入してもらうようにしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば自分で電話して頂いたり、職員がかけ繋ぐようにしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	OMソーラーシステムを使用し温度調整を行っている。毎月、季節に合わせた飾り付けを行ったり、その月のカレンダーの色ぬりを利用者に行ってもらっている	建物内は静かで、OMソーラーシステムにて快適な室温が保たれている。共用の部屋は、天井が高く開放的であり、採光も工夫されている。壁面には、季節を感じさせるカレンダーや利用者の作品が飾られている。廊下の壁には、一点物の額がさりげなく掛けられている	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが好きな場所でくつろいで過ごせている。ソファで休まれる方も多い		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持って来て頂き、居室に自分の部屋を再現していただき、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている	ベッドや収納スペース・エアコンは各部屋に設置されている。タンスは私物であり、レイアウトは本人に合わせて工夫がなされている。思い思いにご家族の写真やシルバーカー・思い入れの品が持ち込みされており、落ち着いた空間が演出されてる	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・風呂等、分かりやすいように表札や絵を書いている。タンスには、入っている物が分かるように名前を書いている		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
理念に基づく運営			
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に職員で理念を復唱している
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近所の方と気軽に挨拶したり会話している。事業所で飼っている犬の散歩を近所の方が連れて行って下さる
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練・太鼓台・獅子舞等イベントに参加する事で、地域の方々に理解が広がっていると思われる
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、施設の現状の報告を行い、アドバイスや意見等を頂いている
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、グループホーム連絡会に参加し、常時、相談・助言が得られる関係を築いている
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の意識統一を図り、身体拘束について勉強している。鍵を使用しない見守りを行っている
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介助時、入浴時等に身体の観察を心がけている。常に心理的、精神的に虐待がないように心がけている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その後、自施設の勉強会にて周知している
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、家族の意見を聞き確認している
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時に現状の報告や家族の意見を聞き、職員間で話し合い実践するようにしている
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会等で各自の意見を聞き上司に報告するようにしている
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価のアンケートや、キャリアアップ手帳を用いて個々の状況把握に努めている。アンケートの内容や解答を回覧している
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように取り組み、勉強会等で取り上げ研修を行っている
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて他事業所と意見交換を行い、自施設に持ち帰り活かすようにしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者との信頼関係が築けるように話しを聞き個別に関わる事を大切にしている</p>
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時等に現状を報告すると共に家族の要望に耳を傾け、しっかりと話しを聞き要望に答えられるようにしている</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族と十分に話し合いを行い、希望や思いを組み取り、ケアに活かすようにしている</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に食事作りを行ったり、後片付けや洗濯物たたみを行い役割を持った生活を送れるようにしている</p>
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時に一緒に話しができるようにし、家族との時間を持てるようにしている</p>
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族に頼み、行ける方は馴染みの病院や散髪に連れて行ってもらったり、家族以外の面会者ともゆっくり過ごしていただけるように配慮している</p>
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員が常時側について話し相手になったり、利用者同士の話しにも入っていくようにしている</p>

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談等を受け、協力するようにしている
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思いを組み取り、本人の希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な方は思いを組み取れるよう努力している
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの中で、昔はどうしていた等、本人の今までの暮らし方を聞いている
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、職員間で情報を共有し、個々の状況の把握に努めている
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	勉強会等で職員全員から意見を聞き状況に合った計画を作成している
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のアセスメントシートに介護計画に沿った行動に赤線でチェックしモニタリングに活かしている。プランは各人のファイルに添付している
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出・外食支援している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる慰問、行事や地域への行事の参加を行っている
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医を決め、往診や受診を行っている
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態を常に観察し、変化があれば看護師に連絡を入れ、支持を仰ぐようにしている
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態を見に行き、医師や看護師に状況を聞いたり、ソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換をし良い関係作りをしている
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族への説明をすると共に職員全体で方針を共有できるように勉強会を行って学んでいる
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを備えすぐに連絡が取れるようにしている
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行う。地域の方々に協力してもらえるように民生委員を通じお願いしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に声掛けや対応に注意し行動する様になっている
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引き出せるように対応し日々の生活を楽しく送って頂けるよう支援している
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に提案はするが本人の希望を重視し本人のしたいように過ごして頂く
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選べる場合は自分で選んで頂いたり、外出や行事の時に化粧をしてもらっている
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下処理の手伝いをしてもらったり一緒に食事をしてから一緒に片付けを行っている
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みに合わせ水分補給して頂いたり、利用者が飲みやすいよう工夫しながら毎日水分量をチェックしている
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。夕食後は入れ歯洗浄剤を使用している。必要な人には歯科往診を利用して頂いている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるようにしている
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い管理している。食物繊維の多い食材を使用したり、適度な運動を毎日行って頂いている
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、曜日は決めているが本人の希望により変えるようにしている
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや体操等に参加して体を動かしてもらい夜ぐっすり眠れるよう工夫している
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに薬の用途や副作用を書いた紙を入れておき、職員がすぐ確認できるようにしている。症状に変化がある時はすぐ看護師に連絡している
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割を持ち過ごせるように支援している。特技を活かした作業を行ってもらったり、外出等の気分転換を図っている
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよるが施設の周りを散歩したり施設で作っている野菜の手入れを行っている。昼食を外で召し上がって頂いたこともある。個々の外出は家族と協力して行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金は家族の預りとしているが、本人や家族の強い希望がある場合は少額にして頂き、本人に管理してもらっている。何か買いたい時は、家族に相談し購入してもらうようにしている
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば自分で電話して頂いたり、職員がかけ繋ぐようにしている
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	OMソーラーシステムを使用し温度調整を行っている。毎月、季節に合わせた飾り付けを行ったり、その月のカレンダーの色ぬりを利用者に行ってもらっている
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが好きな場所でくつろいで過ごせている。ソファで休まれる方も多い
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持って来て頂き、居室に自分の部屋を再現していただき、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・風呂等、分かりやすいように表札や絵を書いている。タンスには、入っている物が分かるように名前を書いている